別添１　仙台防災枠組　2015－2030　（骨子）

１．前文

2015 年 3 月の第 3 回国連防災世界会議で各国は防災への決意を確認。「兵庫行動枠組 2005－2015」の教訓、10 年間の進捗及び今後の課題から「仙台防災枠組 2015－2030」を採択。

２．基本的な考え方

・国は最も重要な責任を持つ。社会全体の協力、女性や若者のリーダーシップが必要。

・最新のデータや科学に基づいた意思決定が必要。

・防災は持続可能な開発への重要な鍵。地域の特質や事情を考慮。

・災害リスク軽減のため公的・民間投資が重要。

・Build Back Better（より良い復興）の考え方で復旧・復興を図る。

・教育・啓発を通じた備えが重要。

・発展途上国への国際協力が不可欠。

３．優先すべき行動

①　災害のリスクを理解し共有する。

②　災害リスクのガバナンス（管理）を強化する。

③　防災への投資を進め、レジリエンス（強靭性）を高める。

④　災害に十分に備え、「ビルド・バック・ベター（より良い復旧・復興）」を実現する。

４．具体的な目標

①　災害に死亡者数・被災者数及び経済的損失を大幅に減らす。

②　医療や教育等の重要なインフラの損害や基本サービスの途絶を大幅に減らす。

③　国や地方レベルの防災・減災戦略を有する国の数を大幅に増やす。

④　発展途上国への国際協力を大幅に強化し、持続的な支援を行う。

⑤　多くの人が早期警戒システムや災害リスク情報を利用できるようにする。

（資料）外務省ホーム・ページ（仮訳）、JCC-DRR（防災・減災日本 CSO ネットワーク）「市民のための仙台防災枠組 2015－2030」　わたしたちが優先すべき災害への備え

Sendai Framework for Disaster Risk Redaction 2015-2030　2016 年 3 月